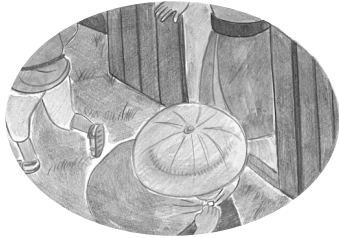




かど で われ ゆ ひと あき
門を出れば 我も行く人 秋のくれ



よ さ ぶ そん
与謝蕪村

さび めし く あき かぜ
淋しさに 飯を食うなり 秋の風



こ ば や し い つ さ
小林一茶

つゆ たま あり た じ た じ と な り に け り
露の玉 ありたじたじと なりにけり



か わ ば た ぼ う し ゃ
川端茅舎

す つき ひげ
澄む月や 髭をたてたる きりぎりす



た か ら い き か く
宝井其角



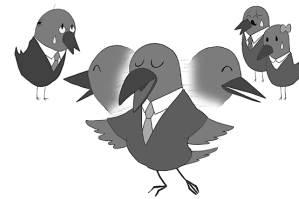
せいこう う どく
晴耕雨読

てんこう にしたがう、じゆうき ままな せいかつ 生活。



はっぽう び じん
八方美人

だれにでもよくおもわれるようにふるまうひと。



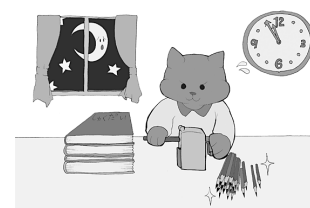
ふ げん じつ こう
不言実行

あれこれいわずにだまってじっこうすること。



ほん まつ てん とう
本末転倒

たいせつ なこととささいなことがはんたいになる。





《裁判所のうた》

ほうりつ まも し ほうけん
法律を守る 司法権

ほうりつ あっているか ちが
法律に 合っているか 違っているか

けってい けんげん も
決定する権限を 持っている

ほか けんりよく かんしょう
他の権力に 干渉されません

さいばんしょ さいこうさいばんしょ
トップの裁判所は 最高裁判所

した
その下に

こうとう さいばんしょ ち ほう さいばんしょ か てい さいばんしょ かん い さいばんしょ
高等（裁判所） 地方（裁判所） 家庭（裁判所） 簡易裁判所

さんしんせい じょうそ さんかい さいばん う せいど
三審制は 上訴により 三回まで 裁判を受けることができる制度

さいしょ はんけつ なつとく こうそ
最初の判決に 納得できなければ 控訴する

つぎ はんけつ なつとく じょうこく
次の判決に 納得できなければ 上告する

さいご はんけつ さいこうさいばんしょ
最後の判決 最高裁判所

みんじさいばん こじん きぎょう あらそ はんけつ
民事裁判 個人や企業の 争いごとに 判決くださ

けいじさいばん けいじじけん ゆうざい むざい はんけつ
刑事裁判 刑事事件で 有罪 無罪 判決くださ

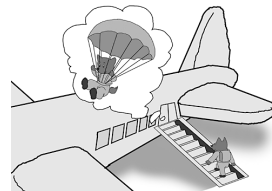
さいばんいんせいど こくみん さいばん さんか
裁判員制度は 国民が裁判に 参加する





そな うれ
備えあれば憂いなし

まえ もって じゅん び しておけば まん いち ば あい こま
前もって準備しておけば万一の場合に困ることは無い。



ところ か しな か
所変われば品変わる

その土地によって風俗、習慣、言語はみな違う。



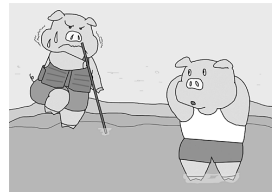
もち もち や
餅は餅屋

もの ごと みち せんもん か まか いち ばん よ
物事はその道の専門家に任せるのが一番良いという事。



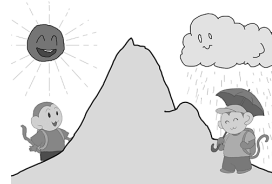
あさ かわ ふか わた
浅い川も深く渡れ

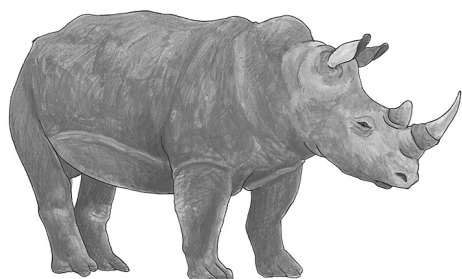
ちい こと こと ゆ だん
小さな事にも油断してはならない。



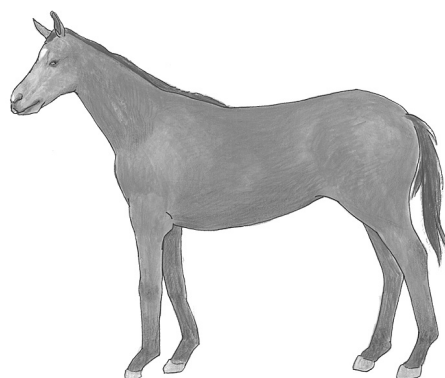
うま せ わ
馬の背を分ける

ち いきてき あめ ゆき ふ よう す こと こと
地域的に雨や雪の降る様子が異なる事。

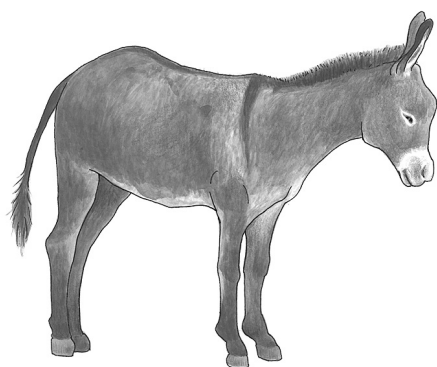




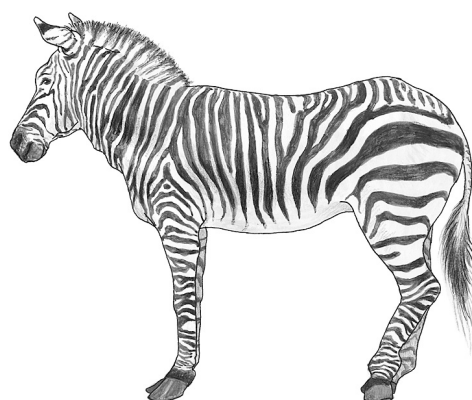
サ イ



ウ マ



ロ バ



シマウマ



忍^{しの}ぶれど
色^{いろ}に出^いで
物^{もの}や思^{おも}ふと
人^{ひと}わが恋^{こい}は
の問^とふまで

(平兼盛^{たいらのかねもり})

浅茅^{あさじ}生の^う
小野^{おの}の
あまの篠原^{しのはら}
りてなどか忍^{しの}ぶれど
人^{ひと}の恋^{こい}しき

(参議等^{さんぎひとし})

